

薬局ボランティアによる人間性教育

*平井 正巳 *鈴木 彰人 *真島 崇 *本屋 敏郎 *河内 明夫 *柴田 由香里
*高村 徳人 *徳永 仁 *古屋 弓子 *松岡 俊和 **倉澤 教昭 ***喜島 健一郎

Pharmacy Volunteer Program Giving the Students the Opportunity for Character Enrichment

*Masami HIRAI *Akito SUZUKI *Takashi MAZIMA *Toshiro MOTOYA *Akio KAWACHI *Yukari SHIBATA
*Norito TAKAMURA *Jin TOKUNAGA *Yumiko FURUYA *Kazutoshi MATUOKA **Noriaki KURASAWA
***Kenichiro KIZIMA

Abstract

We believe that, if students can participate in activities in the local community voluntarily and continuously, it would be a great opportunity for character enrichment through various experiences that cannot be obtained in the university life. Working as a volunteer (early experience study) in a pharmacy and the like would give students an opportunity to learn the basic knowledge, skills and comporment to become a pharmaceutical specialist, or a chance to imagine his/her own future as a pharmacist. We developed a pharmacy volunteer program for students to participate voluntarily so that students can learn the proper behaviors in dealing with people and also have a chance to become familiar with the ethics of medical profession. We investigated the effect of academic year of the participating students on their willingness to learn (active behavior, observation items at the pharmacy) in the pharmacy volunteer program. In the program, a student could participate for 5 days in principle, but he/she was allowed to repeat the program. It was recognized that second year students demonstrated more active behavior than the first year students in the pharmacy volunteer program (including group working). This result would suggest that the pharmacy volunteer program induces more voluntary actions by the students by combining their pharmaceutical knowledge with real experience at the pharmacy, giving the students the opportunity for character enrichment.

Key words : pharmacy volunteer, early exposure, willingness to learn

キーワード : 薬局ボランティア、人間性、早期体験学習、学習意欲

2006. 1.18 受理

緒言

薬学教育 6 年制が平成 18 年 4 月から開始される。先立って日本薬学会は、平成 14 年 8 月に臨床の内容を盛り込んだ薬学教育モデル・コアカリキュラムを提示した。

その中の第一項目に従来の薬学教育に不足している人間教育が挙げられている。一般目標として、生命にかかわる職業人となることを自覚し、それにふさわしい行動・態度をとることができるようになるために、人の共感的態度を身に付け、信頼関係を醸成し、さらに生涯にわたっ

*九州保健福祉大学薬学部 〒 882-8508 宮崎県延岡市吉野町 1714 - 1

** 延岡市西臼杵郡薬剤師会 〒 882-0841 宮崎県延岡市大瀬町 3 - 5 - 9

*** 宮崎県薬剤師会 〒 880-0813 宮崎県宮崎市丸島町 2 - 5

School of Pharmaceutical Sciences, Kyushu University of Health and Welfare, 1714-1 Yoshino-cho, Nobeoka, Miyazaki 882-850, Japan

The Pharmaceutical Association of Nobeoka City & Nishiusuki-Gun, 3-5-9 Ohse-machi, Nobeoka, Miyazaki 882-0841, Japan

Miyazaki Pharmaceutical Association, 2-5 Marushima-machi, Miyazaki, Miyazaki 880-0813, Japan

てそれらを向上させる習慣を身に付けるとある。大学によっては、薬学生のモチベーションを高めるために病院などを見学する早期体験学習を行っている^{1) 2)}。早期体験学習は、学生にとって薬の専門家としての基本的知識、技能、態度を身に付けるきっかけ、あるいは自分の将来像を考える機会となる。一方では、学生が、さまざまな場で自発(自主)的に、継続的に活動する事が出来れば、大学で得られない様々な経験を通して人間性を養うことができるのではないかと考える。

人間性は一朝一夕で身につけられない。人間性は、与えられる教育ではなく日々の大学生生活や様々な経験を通して、はじめて身につけることができる。柿原ら³⁾は、看護学生の意識調査の結果からボランティア活動が青年期の発達過程における教育的価値が大きいことを報告している。薬学教育における医療現場でのボランティアは、医療人としての学生の人間形成において非常に有効であると推察される。本薬学部では宮崎県内の薬局薬剤師の協力を得て、人間教育を踏まえて1年次より地域を中心とした薬局ボランティアを企画し、実行している。社会人としての接遇マナーの習得に加え、医療人としての倫理観などを身につけるきっかけとなるように、学生の自主参加で実施している。学生における学習意欲の向上または人間性を豊かにするきっかけを目的とした薬局ボランティアについて報告する。

方法

1. 薬局ボランティア概要

宮崎県薬剤師会にボランティア受け入れ可能な薬局のリストアップを依頼し、学生の希望により、任意に薬局へ割り当てた(図1)。薬局ボランティア参加案内には、3回の薬局ボランティアについての説明会を開いた。なお、薬局業務に支障をきたすことを考慮して、同期間に薬局1施設につき学生1名を越えないようにした。薬局ボランティアは、1人の学生において原則として5日間とし、繰り返しの参加を認めた。

2003年から2005年の期間の夏季(7-8月)または春季(2-3月)に薬局ボランティアに参加した学生を対象に、表1に示すようなアンケート調査を行った。1年次と2年次での参加においてボランティア終了後の自己評価についてマン・ホイットニー検定を用いて統計処理を行った。

結果

表2に薬局ボランティアに参加した学生の数を示す。2003年に入学した学生は、2005年の春までにボランティアを経験した学生は、67名で、学年全体の46.2%(67/145)であった。また、2004年に入学した学生は、夏に22名(15.1%)、2005年の春に13名、学年全体の24.1%(35/145)が参加した。複数の薬局へボランティアとして参加した学生は、2003年の学生で4名、2004年の学生は2名であった。

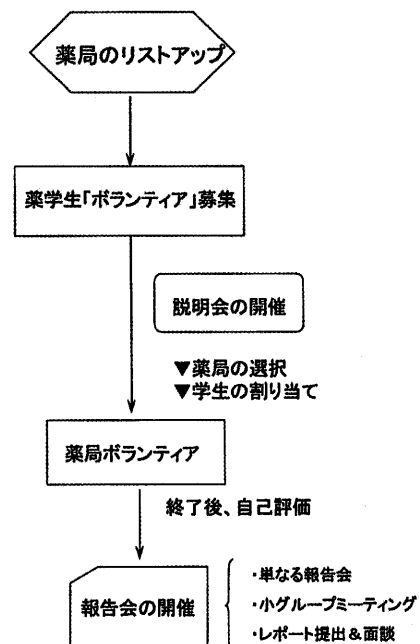


図1 薬局ボランティア実施の流れ

表1 アンケート調査表

I. 自己評価 (5段階評価)

- 調剤薬局がどのようなものか興味が沸きましたか?
- 自分から積極的に質問できましたか?
- 自主的に行動できましたか?
- 社会人としての心構えを考えることができましたか?
- 5日間のボランティアで自分の考えに何か変化はありましたか?

II. 薬局を観察してもっとも興味深かった項目(A~D)について回答して下さい。(複数回答可)

A. 薬局について(複数回答可)

- ①薬が非常に多かったこと
- ②薬の配置が分かりやすく整理されていること
- ③ミスがないように対策が取られていたこと
- ④薬剤師以外の職員がいたこと
- ⑤粉薬の秤量が多かったこと
- ⑥薬に関する資料が多く、整理してあること
- ⑦薬を作るだけでなく健康相談所的なところ
- ⑧化粧品や健康食品も配置してあったこと
- ⑨薬局のチームワークの良さ
- ⑩その他()

B. 薬局の仕事内容について(複数回答可)

- ①慌ただしかったこと
- ②一人で多くのことをしなければならなかったこと
- ③患者さんへの説明の丁寧さ
- ④指導記録を取ることに
- ⑤薬を患者さんのところへ配達すること
- ⑥患者さんの家へ訪問して指導していること
- ⑦患者さんの要望に応じて薬を作っていること(1 包化)
- ⑧医師または看護師に情報提供していること
- ⑨処方箋についての問い合わせを行っていたこと
- ⑩ その他()

C. 薬局の先生について(複数回答可)

- ①やさしく、ていねいな言葉使い
- ②親しみを感じさせる雰囲気
- ③知識の豊富さ
- ④意欲的なところ
- ⑤清潔感
- ⑥薬の説明のしかた
- ⑦患者さんひとり一人を大事にしていること
- ⑧勉強熱心なところ
- ⑨患者さんの話をよく聞いてあげていること
- ⑩ その他()

D. 患者さんについて(複数回答可)

- ①お年寄りが多いこと
- ②小さい子が多いこと
- ③薬の説明を聞かない人が多いこと
- ④薬について質問される患者さんが多いこと
- ⑤支払い金額が多いこと
- ⑥飲んでいる薬が多いこと
- ⑦薬の説明が理解されたかどうか分からないこと
- ⑧かかりつけ薬局をきめられていること
- ⑨薬以外の事についても相談されること
- ⑩ その他()

表2 薬局ボランティア参加学生数

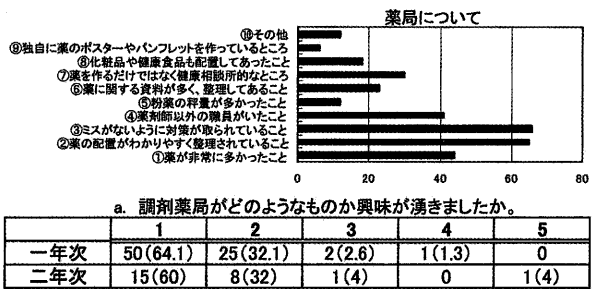
	2003年夏 (7-8月)	2004年春 (2-3月)	2004年夏 (7-8月)	2005年春 (2-3月)	合計
2003年度入学	23	20	12	12	67
2004年度入学	-	-	22	13	35

＜自己評価についての検討＞

1年次と2年次での参加においてボランティア終了後の自己評価について比較検討を行った。

1年次と2年次における自己評価比較を表3に示す。

表3 薬局ボランティア参加年次における自己評価の比較



いて”の項が231であった。これらの観察項目においては、一年次と二年次で著しい差は認められなかった。それぞれに観察された事項を見ると、“薬局について”は、“薬の配置が分かりやすく整理されていること”で65名と“ミスがないように対策が取られていること”で66名であった。また、“薬局の仕事内容について”は、“患者さんの要望に応じて薬を作っているところ（一包化）”で69名、“処方箋についての問い合わせを行っているところ”で60名であった。観察した項目数が多かった“薬局の先生について”では、“親しみを感じさせる雰囲気”が76名と“やさしく、ていねいな言葉遣い”が70名であった。観察項目数が少なかった“患者さんについて”では、“お年寄りが多いこと”が77名であった。

＜薬局で行ったボランティア活動＞

学生が薬局でボランティアとして行ったことは、添付文書の整理、薬品棚の整理、薬品棚一覧表作成、薬歴簿の整理、薬品の有効期限確認、掃除などであった。



*P<0.05 significant difference
()各学年次の割合を示す。

図2 薬局を観察して興味深かった項目

考察

ボランティアという言葉は「奉仕」と捉えられるが、ボランティア活動は、あくまで、個人の自由な意志により、考え、発想し、行動するという自発的な行為である。そして、自己の利益を目的とするものではない。この精神は、医療人を目指す薬学生にとって非常に重要である。自発性、自主性または積極性は、問題解決型行動を身につけるために必要である。学生の医療施設でのボラン

“自分から積極的に質問できましたか”の項において1年次の参加よりも2年次に参加した学生において統計学的に有意に自己評価が高かった。また、統計学的に有意な差は認められなかったが、“自主的に行動できましたか”の項においても2年次において高い自己評価が得られた。一方で、“調剤薬局がどのようなものか興味がありましたか”、“社会人としての心構えを考えることができましたか”及び“5日間の体験学習で自分の考えに何か変化がありましたか”の項において、薬局ボランティアに参加した学年次において顕著な差は認められなかった。

＜薬局において興味深かった観察項目について＞

5日間の薬局ボランティアを通して興味深かった項目について検討した結果を図2に示す。

興味深く観察した項目数が一番多かったのが、“薬局の先生について”で474、続いて“薬局の仕事内容”の項が383、“薬局について”の項が317、“患者さんにつ

ティアは、薬学の知識と医療の現場との体験が結びつき、学生のモチベーションにつながり、さらに人間性を養うことができるのではないかと考える。今回の結果から一年次で参加した学生より二年次で参加した学生において、“自分から積極的に質問できましたか”及び“自主的に行動できましたか”において自己評価が高かったことは、1年間の薬学の講義などから薬剤師に対する興味が深まったためではないかと推察される。図2に示されるように、ボランティアを通して薬局や薬剤師を観察することにより薬剤師の仕事に関心を持った学生が多かった。継続して薬局ボランティアに参加した一部の学生は、自己研鑽をかねて介護・福祉の分野にも目を向けて自主的に老人福祉施設でボランティア活動を行い、自分に必要なものを得ようとしている。学生が、薬剤師の仕事を観察して、“現在の自分では何もできない、何も知らない”という“気づき”は、学習意欲または人間性を高めることにつながる。“門前の小僧習わぬ経を読む”という諺があるように、見聞きしていることが気づかないうちに身につけていることがある。Bandura⁴⁾は、成人のモデルが攻撃行動をしているのを幼児が観察することにより、その後の攻撃行動が亢進するという結果を得ている。この結果は、学習者が、自らが経験しなくても、観察により学習を成立させることができることを示している。学生は、自らの意思で積極的に薬局または薬剤師を観察することによって薬学的知識を得られることが推察される。

北川ら⁵⁾は、看護学生を対象にしてボランティア体験における学生の発達に視点をあて、教育効果を検討している。その結果から①役割の理解と責任感、②子供の見方及び関わり方、③子供と学生の相互作用の過程を発達させる教育効果を認めている。少子化や核家族化、受験戦争の加熱などの社会現象により、子供の社会性が育ちにくい状況にある。青少年の人格形成などを目的としたボランティア体験学習が、高校や大学などでも取り組まれている。

観察項目数からすると、非常に多くのことを観察し、特に自分の将来の姿である薬剤師に関心を示している。学生は、薬局におけるボランティアは、薬剤師の姿を観察することによって社会人マナーなどについて自分自身を評価することができる。ボランティア終了後に20名程度の学生で発表形式の報告会を行ったが、モチベーションの向上には至らなかった。しかし、参加学生8名でKJ法などを用いて“薬局ボランティアについて”のグループワーキングを開くことによって、学生は積極的・自主的な行動（能動的行動）によって“もっと観察でき

たこと”に気づくことができた。さらに、“また行ってみよう”という意見も聞かれた。薬局ボランティアまたは早期体験学習は、参加するだけでなく、終了後のグループワーキングのような学生間の意見交換が重要ではないかと考える。このような機会を提供すれば学生は、薬局にかかわらず社会において能力に応じて様々な部分で力を発揮することができる。薬局ボランティア（グループワーキングを含む）は、自らの意思による継続的な活動、行動を引き出すことができ、人間性を養うきっかけにすることが可能となるものと考えられる。

薬局で学生がボランティアとして行った内容は、添付文書の整理、薬歴簿の整理、薬袋作り、目薬などの説明書折り、薬局内の掃除などであった。薬局からは、日常の薬局業務におわれてできなかったことが、学生が数日間来ることで、解決できたという意見が得られた。

薬局ボランティア参加後、薬局での消極的な行動やきちんと挨拶ができないなどといった学生が認められた。このような学生の存在を見ると、早期に将来の職場などの第三者によってマナーなどについて評価を行ってもらい、大学生活の間に改善する目標を提示することは重要である。

謝辞

薬局ボランティアは、宮崎県薬剤師会の薬剤師の先生方のご理解とご協力によって実施することができています。宮崎県薬剤師会の先生方に感謝致します。

引用・参考文献

- 1) 稲垣員洋, 荒川利治, 山本康司, 西田幹夫, 石原廣男, 奥田 潤, 伊藤幹雄, 高羽祥三, 砂田久一, 薬学部新入生の病院薬剤師業務の見学 Early Exposureの効果, 病院薬学 26: 123-129, 2000
- 2) 辻本利雄, 早期体験学習 (Early Exposure) の薬学学生学習意欲啓発への効果—病院薬剤部見学の基礎科目取り組みへの動機付け—, 明治薬科大学研究紀要 33: 31-39, 2003
- 3) 柿原加代子, 市江和子, 渡辺雅子, 大須賀和子 看護学生の入学時におけるボランティア活動に関する意識, 日本赤十字愛知短期大学紀要 14: 39-48 2003
- 4) Bandur A, Ross D, Ross S. Imitation of film-mediated aggressive models. J Abnorm Soc Psych 66: 3-11, 1963
- 5) 北川かほる, 三瓶まり, 福井典子, 南前恵子, 前田

隆子、笠置綱清 ボランティア体験が学生にもたら
す教育効果（Ⅱ），鳥医短大紀要 32：35-40，2000